

文例（相続人などの表示）

第〇条 遺言者は、遺言者名義の次の預金を、長男〇〇〇〇（昭和〇〇年〇〇月〇〇日生）に相続させる。

【預金の表示】

第〇条 遺言者は、遺言者名義の次の預貯金を、遺言者の内縁の妻〇〇〇〇（昭和〇〇年〇〇月〇〇日生 住所：東京都〇〇区〇〇・・・）に、遺贈する。

【預貯金の表示】

相続人を記載する場合は、氏名のあとに生年月日を明記しましょう。受遺者を記載する場合は、氏名のあとに生年月日や住所など、本人を特定できる情報を明記しましょう。

｜相続人や受遺者の表示

相続人や受遺者の表示は、氏名、遺言者との続柄（関係）、生年月日、住所などをもって特定します。相続人が家族など容易に特定出来る者であれば、生年月日や住所は省略しても差し支えありません。ただし、血縁関係が薄い相続人や受遺者（知人など）は、遺言者しか知らない場合もありますので、住所まで記載しておく方がよいでしょう。また執行の際に住所が明確ですと、所在の探知が省略されますので、手続きがスムーズに進みます。